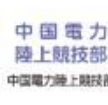




加盟
団体



トップス広島 事務局

〒734-0007
広島市南区皆実町2-8-42
猫田記念体育館1F
TEL:082-254-2012
FAX:082-251-5712
URL:www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



新監督にヨンソン氏！ 新加入3選手とともに、巻き返しに期待！

3度のリーグ制覇に導いた森保一監督（48）が7月3日をもって退任し、後任の新監督にはクラブOBのヤン・ヨンソン氏（57）が就任。26日、FC東京とのルヴァンカップ・プレーオフ第2戦から指揮を執り、外国人監督で巻き返しを図る。

ヨンソン新監督はスウェーデン出身。1993年、バクスター監督時代に広島のコーチに就任、シーズン途中から選手登録しMFとして6試合に出場した。その後、当時JFLだった神戸でもコーチ、選手の経験がある。監督歴も長く、ノルウェー1部リーグで優勝経験もある。

14日に就任会見に臨んだ新指揮官。「最初の目標は降格圏の脱出。選手の質は高い。自信を取り戻すことが大事」と抱負を述べ「攻撃は最大の防御が自分の哲学。まずは守備のベースを作り、ファンタジーやコンビネーションのある攻撃的なサッカーをつくりたい」と再建への思いを熱く語った。

また、後半戦での巻き返しを図るクラブは新たに3人を獲得した。G大阪からFWパトリック（29）と元日本代表DF丹羽大輝（31）、6月までFC東京に在籍した元オーストラリア代表のFWネイサン・バーンズ（29）。丹羽とバーンズは完全移籍、パトリックはブラジルのクラブから来年1月1日までの期限付き移籍。

来日5年目のパトリックはJ1通算96試合に出場し、30得点。高さ、フィジカルの強さ、スピードが武器。G大阪の育成組織出身の丹羽は、J1通算136試合に出場し、2得点。相手との駆け引きに優れており、声で守備陣を牽引するDFリーダー。バーンズはスピードが持ち味で、相手の裏を突く動きやドリブルに定評がある。

加入会見に臨んだ3人は、そろって「残留に向けての力になりたい」と意気込んだ。残留への救世主になるか、大きな期待がかかる。



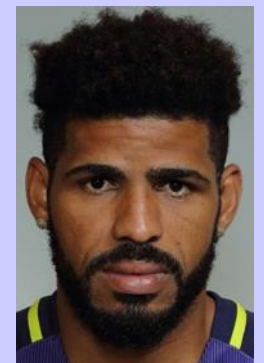
新監督のヨンソン氏



DF 丹羽大輝選手



FW バーンズ選手



FW パトリック選手



東広島市で高校生への講習会を開催！

6月24日（土）に東広島運動公園にて、トップス広島技術向上スクールが行われた。

ワクナガとしては初めての試みとなり、谷村遼太選手、小賀野龍也選手、今井昭仁選手、荻原良太選手ら4選手が参加した。参加したのは、ハンドボール部に所属する高校生たち。選手らと共に汗を流しながら、ボール練習やミニゲームなど、約2時間のプレーを楽しんだ。

また、この日はラジオとテレビの取材も入るなど、注目度の高い講習会となった。

平和マラソンへ向け、ランニング講習会開催！

7月1日(土)、広島市中区スポーツセンターにて「第37回ひろしま国際平和マラソン」(11月3日(金・祝)開催)への参加に向けた、『はじめの一步！ランニング講習会』が開催され、18歳以上の約40名が参加した。

中国電力陸上競技部の梅木蔵雄コーチを講師に招き、姿勢づくりや体の動かし方、そのためのストレッチの講習を受けた。その後の実技では、姿勢やフォームを意識したウォーキングからランニングへとレベルを上げていき、心地よい汗をかいた。

今後も、こうした活動を通じて『これからランニングをはじめたい！』という方を、応援して走ることの楽しさを伝えてほしい。



講師を務めた梅木蔵雄コーチ



上位を独占！激戦のダブルス！

7月15日(土)に鳥根県出雲市の県立浜山公園テニスコートで、16日は松江総合運動公園で、第71回西日本ソフトテニス大会個人ダブルス戦が行われた。

総勢188ペアがエントリーしており、その中でもNTTソフトテニス部は過去最高の成績で大会を終えた。

準決勝では水澤悠太、村上雄人ペア対船水雄太、林大喜ペアの同士討ちの戦いになったが、船水、林ペアが粘りのテニスを見せて勝利した。

決勝も船水・林ペア対丸中大明・長江光一ペアの同士討ちの戦いになった。

序盤から船水・林ペアが気合あふれる声とプレーで戦うが、長江・丸中ペアの繊細かつ大胆なプレーが常に戦況を優位に立たせ、結果、長江・丸中ペアが優勝で終えた。

今大会の上位3つを独占するという、最高の結果で大会を終えたNTTソフトテニス部。次は7月29日(土)、30日(日)に行われる第62回全日本実業団選手権大会。

NTTソフトテニス部は現在2連覇中、今年は悲願の3連覇を目指す！



第1回 広島メイプルレッズカップ開催！

7月8日(土)9日(日)の2日間、中区スポーツセンターにおいて第1回広島メイプルレッズカップ中学生ハンドボール大会を開催し、メイプルレッズの選手たちは運営に携わった。

参加チームは広島メイプルレッズジュニアのほかに県外からのチームを加え、男女ともに4チームでリーグ戦を行った。

男子の優勝は広島メイプルレッズジュニアで、女子の優勝は岡山県の倉敷市立東中学校だった。

どのチームも実力以上の力を発揮して大会を盛り上げ、1回目の大会ではあったが見事に大成功に終わった。

普段は運営してもらう側の選手が、審判やモップ係などを体験し、大会運営の大変さを知ることができ、意義のある大会となった。

また、試合の空き時間を利用してハンドボールクリニックを行ない、早速教えてもらったプレーを試合で挑戦する中学生の姿に、メイプルレッズの選手も思わず応援に熱が入った。

是非、今大会に参加した中学生の中から今後の日本ハンドボール界で活躍する選手の誕生を期待する。



参加した中学生と広島メイプルレッズの選手たち

笑顔の輪が広がったホッケークリニック！

7月9日（日）、今期初のホッケークリニックがCCWRS ホッケー部のホームグラウンドであるココ・コーラウエストレッドスパークスホッケースタジアムで開催された。

毎年各地で実施しているこのホッケークリニックは、経験者を対象に選手やスタッフが技術指導を行う活動で、地域社会貢献の一環として行われている。今年も広島県内の高校生やスポーツ少年団の中学生・小学生・幼児の子どもたちを呼び昨年を超える計91名が参加した。約2時間選手・スタッフによる指導を受けるなど貴重な時間を過ごした。

当日はあいにくの雨だったが、高校生たちは選手たちによる見本を見ながらドリブルの練習などを教わった。

またホーグッド監督による指導も行われ、基本的なことから試合に役立つ実践的なことまで熱心に指導を受けた。スポーツ少年団の子どもたちはドリブルリレーに夢中になるなど楽しい時間が流れていた。休憩時には藤井美沙選手から子どもたちにドリンクが手渡され、笑顔で受け取っている姿も見られた。

CCWRS ホッケー部は今後もこのような活動を通じて、よりホッケーの楽しさを地域の皆様に知っていただきたい。



選手からの指導を熱心に聞く参加者

さくらジャパンに4名選出！

2018年に開催されるワールドカップの予選に当たる、第3回女子ワールドリーグセミファイナルが7月8日（土）～23日（日）に行われる。世界ランキング上位9ヶ国に加え、Round2から勝ち上がった9ヶ国、ホストの2ヶ国の計20ヶ国が16日間熱い戦いを繰り広げる。

『さくらジャパン』の愛称を持つ日本代表のメンバーにCCWRS ホッケー部からFW・加藤彰子選手、MF・湯田葉月選手、DF・錦織えみ選手と浅井悠由選手が選出され、選手たちは気合十分でヨハネスブルクに出発した。初戦は、7月8日（土）で相手は世界ランキング18位のアイルランド。緊迫した試合は1-1の引き分けで終わり初戦の白星スタートとはいかなかった。しかし、第2戦・3戦目は堅い守りで相手に点を許さず2戦連勝した。2018年のワールドカップへの切符を掴むため、CCWRS ホッケー部の選手たちをはじめ日本代表に期待したい。

年に一度の祭典！鯉の選手たちが躍動！

7月14日（金）、15日（土）に愛知県のナゴヤドーム、千葉県のZOZOマリンスタジアムで、12球団の選手がセ・リーグとパ・リーグに分かれ試合をする、マイナビオールスターゲームが行われた。出場選手はファン投票と監督選抜メンバー、選手間投票で決められる中、カープからはまず、去年の優勝チームの監督として緒方孝市監督、選手はファン投票でチーム最年長の新井貴浩選手、WBC日本代表として活躍した、菊池涼介選手、鈴木誠也選手、そして監督選抜で投手の岡田明文選手、藪田和樹選手、遊撃手の田中広輔選手、外野手の丸佳浩選手の合計7名が選ばれた。

試合では惜しくも、第1戦を2-6、第2戦を1-3でともに負けてしまったが、終始リラックスした表情を見せた、鯉の選手たち。

ここからまた優勝に向けて、気持ちを新たに臨んでほしい。



リラックスした表情の選手たちとスライリー

期待の助っ人入団！広島に新たな旋風を起こせるか！

JT サンダーズは7月10日にオーストラリア代表のトーマス・パトリック・エドガー（Thomas Patrick Edgar）選手の入団を発表した。なお、来日は8月上旬の予定となっている。

エドガー選手は昨シーズン、アルゼンチンリーグでプレー。入団初年度ながら、優勝に貢献。南米クラブ選手権においても、チームを準優勝に導いた。

2015年に日本で開催されたワールドカップでは、対エジプト戦で50得点を挙げ、1試合での獲得点数としてはFIVB主催公式戦の最高得点として記録されている。

身長212cmの彼の持ち味は、最高到達点360cmの高い打点から打ち下ろすスパイク。また、強靱な精神力でチームを牽引するアグレッシブなプレイスタイルも彼の武器である。

ビーチバレーに転向した越川優選手の穴を埋めるべく、エドガー選手にかかる期待は大きい。この期待に是非、答えてほしい。



入団が決まったエドガー選手



国内外の大会で好成績を残す！更なる飛躍に期待！

6月27日（火）～7月2日（日）に台湾の台北市で開催された、チャイニーズタイオープン2017グランプリワールドにシングルスで、下田菜都美選手が出場した。

下田選手は予選の1回戦、2回戦ともに地元の台湾の選手との対戦で2試合とも勝利をおさめ、見事に予選を突破した。続くトーナメントでは1回戦を勝ち上がり、2回戦での第2ゲームでは、16-20の相手のマッチポイントから逆転する勝負強さを発揮するなど、勝ちを重ねた。準決勝で惜しくも敗れたが、見事3位入賞を果たした。

また、7月5日（水）～9日（日）には秋田県のCNAアリーナ★あきたで、第67回全日本実業団選手権が開催された。

広島ガスバドミントン部は予選リーグからのスタートだったが、圧倒的な強さを見せ3試合すべてに勝利。続く決勝トーナメントでは2回戦からの登場で、ACT SAIKYO（山口）を相手に接戦をものにし、勝利した。ベスト4をかけた準々決勝では北都銀行（秋田）と対戦。2-3で惜しくも敗れたが、今年は昨年のベスト16をこえ、ベスト8という結果で大会を終えた。

各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆

コカ・コーラウエスト
レッドスパークス
大田 昭子選手

生年月日 1986年9月15日

身長 160cm

血液型 O型

出身地 鹿児島県

↓担当者からのコメント

チームの大黒柱。後期はキャプテンを務め、チームを引っ張っていきます！ご期待ください！



全日本実業団選手権に出場した選手たち



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

編集協力 広島経済大学 興動館
スポーツによる地域活性化プロジェクト